

中国四国地区協会における 助成事業の取り組み

岡山大学 附属図書館 学術情報サービス課

竹下 啓行

助成事業 実績(平成20～26年度)

実施主体: 地区代表館

年度	実施事業	会場	参加者
平成20	ワークショップ 新しい学術情報利用システムを考える 「大学における研究・教育活動と電子リソース利用の現在」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 共催: 中国四国地区大学図書館協議会、広島県大学図書館協議会	広島大学	71
平成21	情報リテラシー教育担当者研修会 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 共催: 中国四国地区大学図書館協議会、広島県大学図書館協議会	広島大学	40
平成22	講演会「電子書籍と大学図書館:何ができる?どう変わる?」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 共催: 中国四国地区大学図書館協議会	岡山大学	62
平成23	ワークショップ「できる大学図書館広報術-プロに学ぶコンセプトメイキングと実践のコツ-」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 協賛: 中国四国地区大学図書館協議会、広島県大学図書館協議会	広島大学	59
平成24	貴重資料複製の相互活用による地域貢献事業	広島大学 (主担当)	(56点 複製)
平成25	実務ワークショップ(ILL) 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会	香川大学	26
平成26	ワークショップ「インターネットになく図書館にあるもの-来館型図書館を考える」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 後援: 中国四国地区大学図書館協議会	鳥取大学	21

助成事業 実績(平成27年度～)

実施主体: 事業委員会

年度	実施事業	会場	参加者
平成27	ワークショップ「大学図書館で楽しく身につく使える英語: 多読・図書館留学・ライティングセンター」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 後援: 中国四国地区大学図書館協議会、広島県大学図書館協議会	広島大学	53
平成28	「図書館資料補修講座: 本の保存と修理」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会	愛媛大学	20
平成29	ワークショップ「資料のカビ・虫害の予防と対策」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会	岡山大学	49
平成30	ワークショップ「大学図書館のアクセシビリティを考える」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 共催: 広島県大学図書館協議会 後援: 中国四国地区大学図書館協議会	広島大学	43
〃	英語多読推進キャンペーン	広島大学 (主担当)	629
令和元	JPCOARワークショップ「OA+x=OS: とにかくオープンアクセス・オープンサイエンス」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会、JPCOAR	岡山大学	66
令和2	「徹底解説! 魅力的な図書館オンライン講習会開催のための講習会」 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会	オンライン	34
令和3	第9回中国・四国・九州・沖縄地区大学図書館職員フレッシュパーソンセミナー (基調講演「本との出会いの場」としての図書館の役割」) 主催: 国立大学図書館協会中国四国地区協会 共催: 国立大学図書館協会九州地区協会、中国四国地区大学図書館協議会	オンライン	講演 114 その他 41

助成事業（WS等）参加者アンケート

1) 参加の動機

	平成29年度 カビ・虫害	平成30年度 アクセシビリティ	令和元年度 OA	令和2年度 オンライン講習	令和3年度 本との出会い
テーマに興味 があった	63%	57%	74%	93%	
講演者に関 心があった		3%	15%	4%	
上司、同僚に 勧められた	25%	40%	40%	22%	
その他	12%		6%	4%	
無回答			0%		
計	100%	100%	136%	122%	

※令和元～2年度は、複数回答（平成29～30年度は不明）

※令和3年度は、参加動機に係る設問なし

助成事業（WS等）参加者アンケート

2) 感想

	平成29年度 カビ・虫害	平成30年度 アクセシビリティ	令和元年度 OA	令和2年度 オンライン講習	令和3年度 本との出会い
満足	79%	68%	64%	70%	48%
どちらかとい うと満足	15%	32%	36%	30%	49%
どちらともい えない	3%			0%	3%
どちらかとい うと不満			0%	0%	0%
不満			0%	0%	0%
無回答	3%		0%		
計	100%	100%	100%	100%	100%

※令和3年度は、基調講演についての回答

※令和3年度の選択肢は、上から順に「大変参考になった」「参考になった」「ふつう」
「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」

特色ある取組み 「英語多読推進キャンペーン」

- ◆実施期間 平成30年10月1日～平成31年1月25日
- ◆実施館 7/10(加盟館のうち希望した館)
- ◆対象者 実施館に所属の学生及び教職員
- ◆参加者 629名(参加用紙配布数)
- ◆概 要

実施館担当者の声

- ・広報資料やノウハウの共有ができた。
- ・連絡・調整など負担が大きかった。
- ・既に同様の取組みを実施していたため、自館のやり方とのすり合わせが難しかった。

- ・事業委員会の下にワーキンググループを設置(地区協会総会で承認)
- ・実施期間を4期に分けて、各期ごとに目標(読破した語数、コメントシート提出など)を設定。
 1. 目標を達成した参加者に、スタンプを付与。
 2. 一定数のスタンプを得た参加者に、先着順でグッズ(実施館が相互に提供)を贈呈。
 3. 全期間終了後、各実施館の上位者に、図書カードを贈呈。
- ・回収したコメントシート(おすすめ図書や多読法の紹介、210枚)は、各実施館で活用。
- ・一部の実施館では、次年度以降、独自に同様の企画を実施。

助成事業 実施体制（平成27年度～）

◆実施主体： 事業委員会（地区協会会則 第8条）

◆事業委員会の体制等：

- ・会員館より委員各1名（計10名）+ 委員長館1名（地区副代表館の課長）= 11名
- ・委員の内訳は、係長3、主任4、課員3（令和4年度）
- ・協議はメール等で行い、対面は年1回（助成事業実施 + 総会）のみ

※コロナ禍以降は、助成事業と総会もオンライン開催

- ・助成事業への申請や費用の管理は、地区協会代表館
- ・その他、必要に応じて、地区協会代表館及び副代表館と相談

事業委員会 年間スケジュール(令和4年度)

4月	国立大学図書館協会中国四国地区協会総会(オンライン) ・事業委員会委員長館を決定、事業委員会活動方針を協議・承認
5月	事業委員会委員を決定
6月	事業委員会 第1回打合せ(オンライン) ・助成事業の開催時期、開催形式、テーマを決定
7月	事業委員会 第2回打合せ(オンライン) ・助成事業の構成、講師候補を決定
11月	中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議 ・事業委員会中間報告
12月	助成事業 申請
2月	助成事業 実施(オンライン)
3月	助成事業 実施報告 事業委員会総会
4月	国立大学図書館協会中国四国地区協会総会 ・事業委員会活動報告

現在の実施体制の長所と課題

【長 所】

- ◆すべての地区協会会員館から要員(事業委員会委員)を集めることで、若手職員などの多様な意見を反映した企画を立案できる。
- ◆現場の声を活かしたボトムアップの企画立案、地区協会のトップダウンによる企画立案、ともに実施可能。
- ◆事業委員会委員長館が事実上固定されているため、委員長館に経験が蓄積しやすい。

【課 題】

- ◆要員が地理的に分散しているため、参集が難しい。
 - 要員間の意思疎通と作業分担が難しい。
 - (コロナ下でオンラインツールが普及したが、リアルに面識がない者同士なので...)
- ◆要員の任期が1年となっているため、各会員館に経験が蓄積しづらい。
 - 結果として、事業委員会委員長館が主導しがちに。

ご清聴ありがとうございました。